

銅屋根から突き出たクスノキはラ コリーナのシンボルツリー



草葺き屋根のショップのドーマー、正門の屋根なども銅製。鮮やかな緑青も味わいの一つと、その経年変化を楽しんでいる



田植えを終えたばかりの水田に映り込む本社(銅屋根)。それは自然を愛し、学び、寄り添いながら、自ら草木を植え田畑も耕し、葉子を作る。そんな「たねや」の姿勢を体現している

巨木の樹皮のように 展望塔を覆う約5400枚の銅板

ラ コリーナ近江八幡

何気なく建築雑誌の頁をめくっていた手が、ハッと止まる。そこには、迫力ある巨大な銅色のドームが佇んでいた。曲面、球形を描く屋根や壁面に葺かれた無数の銅板は、一体どのように作られ施工されているのか。古き良き日本の田園風景や草葺きの建物とともに息づく滋賀県にある「ラ コリーナ近江八幡」の(銅屋根)を訪ねた。

田んぼをぐるりと取り囲む 銅屋根、草葺きの建築物群

琵琶湖最大の内湖・西の湖や八幡山などに抱かれた北之庄にある「ラ コリーナ近江八幡」は、たねやグループのフラッグシップ店だ。元々「たねや」は、その名の通り江戸時代に種苗を扱っていた近江の老舗。明治に入り京都の和菓子店で修業した技で和菓子業を開始。さらに、バームクーヘンなどの洋菓子の技術も学び、お客様から、心から美味しいと喜ばれる菓子を探究し続け、いまに至る。

平日でも大勢の来場者で賑わう施設内には、瑞々しい草と木の香りと、菓子の焼ける甘い匂いが漂う。来場者は、各ショップで和洋の菓子職人が製造する姿を見学しながら、カフェで菓子を堪能することもできる。ここは、菓子店の集合施設というよ



手づくりの銅製燈籠など施設内のあちこちに銅が使われている



手折り加工した約5,400枚もの銅板を壁面・屋根に

りも、大人も子供も楽しめる菓子のテーマパークだ。雑誌の建物は、日本銅センター賞も受賞した建築家・藤森照信氏設計による(銅屋根)と名付けられた本社社屋で、銅板・文字葺きの「西面屋根」と、球面・曲面でデザインされた「展望塔」で構成されている。展望塔を間近で見ると、銅板が樹皮のように全体を覆い、圧倒的な存在感を放つ。

ラ コリーナ近江八幡の敷地面積は、35000坪で甲子園球場3個分の広さにもなる。その中心に美しい水田を配し、周りを様々な建築物が取り囲む。本社社屋(銅屋根)。草葺き屋根と銅製のドーマーが印象的なカステラやバームクーヘン、和菓子などのショップ。そこに続く草葺きの回廊は、西側から見ると銅葺き屋根へと変化するユニークな設計になっている。敷地内で森づくりを進めながら、棚田、畑などもあり、どこか懐かしさを感じる風景と、モダンな建造物が心地良く溶け込んでいる。

本社社屋全体で 約7700枚の銅板を使用

「当施設は、故郷・近江八幡の地にしっかりと根付き、豊かな自然に学び、誕生したたねやの菓子と作り手の思いを多くの方に伝えたい。そんな社長への願いを込め、2015年1月にオープンしました。(銅屋根)をはじめ、藤森先生の建築には随所に

に銅が用いられています。でも、最初はなぜ銅を選ばれたのか、建築の素人である私たち社員は不思議に思っていました」とラ コリーナの広報担当。

(銅屋根)に使用された銅板は、西面屋根と展望塔を合わせ約7700枚になる。当時の様子は、たねやグループのホームページ(ラ コリーナ日誌)のブログで生き生きと伝えられている。それによると、藤森氏は「海坊主のような自由曲線を金属板で表現するのは難しい。だが、銅板をウロコのように重ねて葺くことで実現できる」と解説。さらに「この施設を愛着を持って使えるように、銅板の加工などできることは、みんなで一緒にやってみよう」と呼びかけた。社員は、建築を学ぶ近隣大学

生にも声をかけ、ワークショップとして作業を開始。銅に触れ合う度に、次第と銅への印象は変化していったと言う。

「銅といえば茶色の10玉玉のイメージでしたが、届いた銅板は、ピカピカと眩しいほど光り輝き、銅はこんなに綺麗なもののかと驚きました」。さらにブログによると、銅板の加工指導は、本施設の板金施工業者が引き受け、作業前に銅の特性や作業を安全に行う注意点を、さらに「銅板を曲げること、柔軟に伸び縮みし、球面に馴染むことができる」と説明。展望塔の約5400枚の銅板は、8種類の大きさで用意され、綿密な計算により、展望塔の勾配や球面の形状に合わせて巧みに使い分けられていった。

「角材を使い、3〜4cm間隔で銅板を折り曲げていくのですが、実際にやってみると、簡単に手で加工できることにまた驚きました。素人ならではの粗さ、バラツキが良い味を出してくれそうです」と笑う藤森先生は、とても楽しそうに、私たちが伸び伸びと作業することができました。雨風に吹かれるうち、銅板は次第に穏やかな色合いへと変化していき、また。時を経て、銅という金属が、木や草や土など周りの風景と自然に馴染んでいく姿は、感動的です。ますます愛着が湧いていきます」

ちょうど田植えを終えたばかりの水田には、トンボが飛び交う姿も。自然を愛し、学び、寄り添いながら、自ら田畑を耕し、木を植え、小川を作り、生き物たちと共生できる環境を築いていくラ コリーナ近江八幡。またこれから年月をかけ、施設も自然も豊かに育てていきますよ」

社員、近隣大学生と一緒に銅板を加工「ワークショップ」



銅板を机と角材の間に挟み、上へ下へ。3〜4cm間隔で折り曲げる



近隣の大学で建築を学ぶ学生約100名も参加し、あこがれの藤森氏と一緒に作業

■本社社屋(銅屋根)に使用した銅板

- 総枚数…約7,700枚
- 総重量…約9トン

	枚数	重量	サイズ
展望塔	約5,400枚	5.5トン	代表サイズ幅303mm×横1,212mm×厚さ0.35mm
西面屋根	約2,300枚	3.5トン	代表サイズ幅227mm×横1,224mm×厚さ0.4mm

※本施設の共同設計・監理：株式会社アキムラ フライイング・シー(代表取締役 中谷弘志氏)より